

### その3、オローパ

3回目は聖地オローパです。この聖地は、ベアータ・ヴェルジネ (Beata Vergine) のサクロ・モンテ、又は、ビエツラ地区の巡礼地 (Santuario di) ノストラ・シニョーラ (N. S. )・ディ (di)・オローパ (Oropa) と呼ばれています。Beata Vergine も Nostra Signora も、両方とも聖母マリアのことです。要するに、この巡礼地及びサクロ・モンテは聖母マリアに捧げています。これは添付のような、黒いマドンナに関する興味深い言い伝え (英文のブローチャーを訳したものです) によるものと思われる。

この高度 1180 メートルにある聖地は、サクロ・モンテのなかで一番訪ねてみたかったところでした。日本からのツアーでもここは外れないようです。ここには、巡礼者 (観光客も含む) の為、200 以上の宿泊設備もありますので、巡礼者が絶えることのない聖地です。確かに、話の通りビエツラ駅からのバスを降りてびっくりするほどの大きな Santuario のコンプレックスです。大きな山を背景にまるで絵葉書のような美しい光景でした。まるで、ヴェルサイユ宮殿か京都御所を思わせるような新旧バシリカを含む巨大な設備が山と緑に包まれてきれいな長方形で配置されています。こんな田舎の山奥にこんなものを作ったこと自体が信じられません。そこには宿泊設備だけでなく土産物屋、カフェ、レストランも揃っていて、巡礼者だけでなく観光客好みに作られていることも間違いありません。実際に、そこには、観光客と巡礼者でいっぱいでした。かなり、観光受けするように意識しているように見えますので、純粹に巡礼に来た人はちょっとがっかりするかもしれません。



ここの一番の目玉は、何と言っても黒いマドンナです。本物の黒いマドンナは旧バシリカのご本尊 (キリスト教ではなんと言うのかわかりません) です。黒いマドンナの前では、巡礼者は静かに礼拝をしていて、観光客は近くによって写真を撮っています。この黒いマドンナの顔はすばらしく、信仰心のない私でも十字を切って礼拝してしまいました。その表情はまるで観音様です。黒いマリア様は新バシリカにも 2 つ (一つは地下の礼拝堂) ありました。サクロ・モンテの中にもありました。確かに、観音様と同じで黒いほうが神秘

的であり、しかも表情が穏やかに見えるような気がします。



この巡礼地の周りには、数々のトレッキングコースがあります。所要時間 20 分のものから他の巡礼地へと続く 1,2 時間又はそれ以上のコースがあります。時間のない日本人の旅では 20 分コースしか選べませんでした。20 分コースは、この Santuario のコンプレックスと谷を挟んで並行して走る山道を 20 分ほど歩くだけですが、そこから見える Santuario のコンプレックスがまたすばらしい。自然の中に包まれています。



ビエッラ周辺の山や巡礼地をめぐるトレッキング・コースも魅力的です。ビエッラ周辺の

自然を感じながら美しい山間を、巡礼地を訪ねながら歩き回るのもいいかもしれません。但し、こうなるとお遍路さんと同じで、もっと時間と暇が必要です。この中の巡礼地グラッリャは、ビエッラの街から 5 キロ（オローパから 6 キロで 2 時間コース）のところ（ここにサクロ・モンテを建設する計画もあった）にあり、その聖堂の中には幼子イエスを抱く黒い聖母マリア「Madonna di Loreto ロレートの聖母」が安置されているそうです。

新バシリカの先には、ロープウェイの駅があります。そこから、カミーノ山に登れます。このロープウェイ（イタリアで一番古いそうです）は高さ 1900 メートルまで行っていて、そこが登山口になっているとのこと。また、その先、1900 メートルから 2400 メートルまでロープウェイは続いていて、冬にはスキー客が利用しているようです。



礼拝堂は、Santuario の新バシリカの先を登ったところにもありますが、聖母マリアの礼拝堂は、新バシリカの脇から山の中に入って行く方向にあります。更に、山を登りますので、一番高いところの礼拝堂は 1230 メートルの高さにありました。結構、つらい登りです。本当は、一番下にある礼拝堂から番号がついていて、そこから巡礼するのですが、逆コースのほうが楽です。一番高いところの礼拝堂から、徐々に山を下り、Santuario のコンプレックス入口近くまで続きます。礼拝堂の中にはフレスコ画と彫像で聖母マリアの生涯を綴っているのですが、残念ながら保存状態があまり良くありません。首が取れたものや色がはげているものがありました。





ここは Biella 駅から 13 キロの距離にあり、1180 メートルの高地にあります。Biella 駅からは ATAP バスの Linea Urbana 2 が Santuario di Oropa のゲート Cancelli 及びその先の Basilica Nuovo まで行く事が出来ます。所要時間は 40 分です。バスは 1 時間に 1 本くらいの間隔であります。日曜日にも 1-2 時間間隔であります。もちろん、帰りも同じルートになるので、往復チケットを買う必要があります。チケットは Biella 駅のバールで売っていました。停留所は駅前の右側にある赤のバス停です。金額は、多分片道 0.9 ユーロ (カフェとクロワッサンと往復チケットで 3.6 ユーロだった) だと思います。バスはかなりの登り道ですので、この 0.9 ユーロは格安料金だと思いました。ほとんどの人はドライブで行くのでバスはそれほど混んでいません。バスは、Santuario 入口から二つ先のロープウェイの駅 (歩いて行けるくらいの距離です) まで行っています。

Biella の街も、バスで通過しただけですが、山に囲まれたきれいな街でした。一度訪ねてみたいところです。歴史的な建物や自然公園があり、観光資源も豊かみたいです。Biella 駅 (正確には Biella San Paolo 駅です) には、Novara から所要時間 40 分で行きます。行きも帰りも 1 時間に 1 本ありますが、10,11 時台だけありませんので気をつけてください。国鉄なのに 2 両編成のきれいな車両なのでびっくりしました。今まで乗った国鉄では一番です。

今回は、国鉄もバスも含めて、全く問題がありませんでした。イタリアに来て何も問題がなかったのは初めてのようになります。少し拍子抜けです。1,2 分の誤差はありますが、列車もバスもほとんど時間通りで、乗り継ぎもすべて順調でした。従って、今回は周りのイタリア人のお世話にもなっていません。帰りは、15 時 20 分に Santuario からバスに乗り、すべて順調で乗り継ぎ時間も良くミラノ中央駅に 17 時 45 分に到着しました。遠いと思いましたがそれほどではありません。

オローパの Santuario には上記の如く何でもあります。無料のトイレも数ヶ所にあり、全く不便を感じません。それに、見るだけならすべて只です。

## Santuario di Oropa

全部で 19 の礼拝堂のうち、16 の礼拝堂が Santuario の近くにあり訪問できます。その中の下記の 13 の礼拝堂がキリストの受難ではなく聖母マリアとなっています。

1. Cappella dell'Immacolata Concezione di Maria (聖母マリアの無原罪受胎)
2. Cappella della Natività di Maria (聖母マリア生誕)
3. Cappella della Presentazione di Maria al Tempio (聖母マリアの神殿奉獻)
4. Cappella della Dimora di Maria al Tempio (聖母マリアの神殿住居)
5. Cappella dello Sposalizio di Maria (聖母マリアの結婚)
6. Cappella dell'Annunciazione (受胎告知)
7. Cappella della Visitazione (訪問)
8. Cappella della Natività di Gesù (キリスト生誕)
9. Cappella della Purificazione di Maria (聖母マリアの洗礼)
10. Cappella delle Nozze di Cana (カナの結婚式)
11. Cappella dell'Assunzione di Maria (聖母マリアの被昇天)
12. Cappella dell'Incoronazione di Maria in cielo o "del Paradiso" (天国での聖母マリアの戴冠)

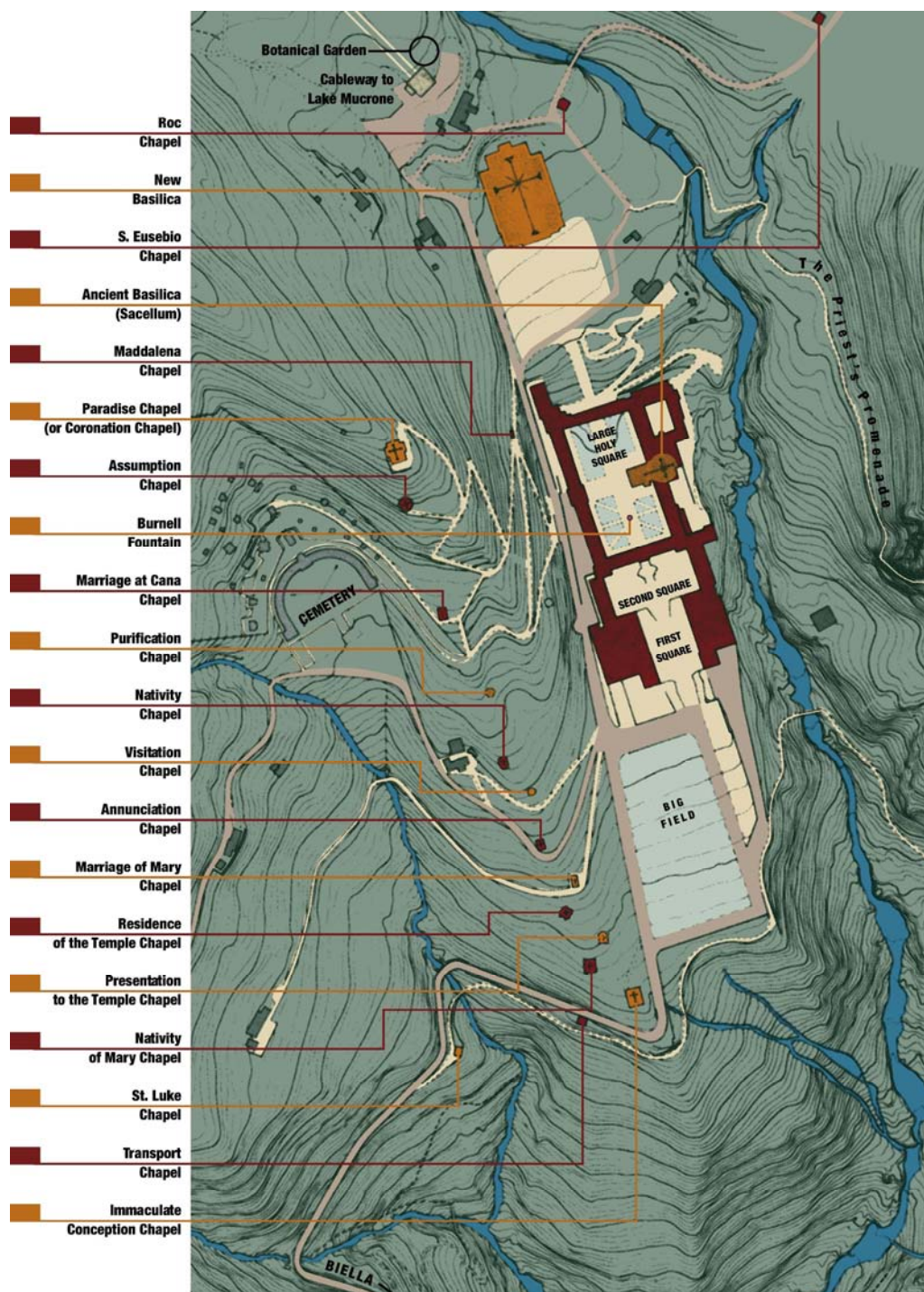
残る 3 つの礼拝堂は、それぞれの聖人に捧げられたものです。また、礼拝堂は山を下っていくバスからもいくつか見えましたので、Santuario 以外の残りの礼拝堂だと思います。

オローパは 1617 年からサクロ・モンテの造営が始まりましたが、もともと、ビエッラの周辺の美しい山間には古くから巡礼地 (11 ヶ所ほどある) が点在しています。ほとんどが聖母マリア信仰であり、オローパもその中の一つとしての巡礼地でした。それぞれの巡礼地には、それぞれの言い伝えがあり、それが庶民の巡礼に繋がっています。この聖なる地オローパには黒いマドンナと言われる聖母マリア信仰と強く繋がる木彫りの黒い聖母マリア像 (黒いマドンナ) があります。

言い伝えによると、西暦 369 年に、ヴェルチェッリの司教であった聖エウゼビオがキリスト教の迫害から逃れてこれらの山々に避難してきてオローパでのキリスト信仰が始まりました。黒いマドンナ (おそらく聖ルカ自身が彫ったものと推測される) は聖ルカがエルサレムからオローパに持ってきて、大きな岩の自然に出来た窪みに安置して祀ったと言われています。その後、記録として残る一番古い聖地としてのオローパの記述は 13 世紀に入ってからとなっています。ビエッラ周辺の巡礼地がほとんど聖母マリア信仰であるのも、オローパの黒いマドンナと繋がっているものと思います。この聖母マリア信仰の巡礼地であったオローパに、1617 年から 1800 年の間にサクロ・モンテが造営されて更に拡大され、現在の姿に至っています。古いバシリカは 13 世紀に建てられた小さな教会を取り壊した後、1599 年に建てられたものです。新しいバシリカ Basilica Nouvo は、1885 年に建設が

開始され 1960 年に完成しました。礼拝堂の数は全部で 19、そのうち数個の礼拝堂は 1620 年から 1720 年の間に建てられたままの状態です。

### Santuario di Oropa 地図



## 黒いマドンナと半跏思惟像

オローパの“黒いマドンナ”を初めて見たときから、その美しく気品のある顔が観音菩薩の顔と共通点があるような気がして仕方がありませんでした。黒いことが気品と美しさを際立たせていることは理解できますが、その顔は、ミラノ等の教会や絵画で見る顔とは全く違います。聖母マリアの顔は、優しさにあふれている美しい顔が普通なのですが、この“黒いマドンナ”は気品があるのです。この気品は、日本にある観音菩薩に共通しているとは直ぐに思いついたのですが、これほど美しい顔をした観音菩薩はなかなか思いつきませんでした。

いろいろと探しているうちに、広隆寺の弥勒菩薩“半跏思惟像”に行き着きました。数十年前に、ある大学生がこの像の指先を折ってしまったときに、裁判となりましたが、その判決は、“原因はこの弥勒菩薩の顔が美しすぎることにある”として、この大学生の責任を問わなかったとの話があります。うっすらと浮かべた微笑は気品があり、引き込まれそうな気がします。日本で一番美しい菩薩様と考えて良いと思います。

この2つを比較してみました。



見てお分かりのように、そっくりです。もう一つの比較した写真を載せます。



これを見て、何故か、気持ちがすっきりしました。すっきりした理由は良くわからないのですが、少なくとも、“聖母マリア=弥勒菩薩”と理解したわけではありません。しかし、世界の西の端と東の端で、このようにそっくりな像が存在する事には、どのような意味があるのか不思議です。それが、宗教なのでしょう。なぜ、そうなるのか理解は出来ないのだけど、気持ちがすっきりするものが、きっと、本当の宗教であり、神秘的なものであるのだと思います。

何故、白人であるヨーロッパで、このような“黒いマドンナ”が崇拜されるのでしょうか。やはり、白い顔では表しきれないものがあるのだと思います。優しいだけでは駄目なのです。神としての気品が必要であり、それを表情に出すためには黒い顔が必要だったのではないのでしょうか。この気品のある“黒いマドンナ”を信仰する巡礼者は、その顔を遠くから、しかも、山を登ってわざわざ見に来るのです。この“黒いマドンナ”に対する信仰は世界共通の宗教観から来るものなのでしょう。即ち、それはキリスト教だけの物ではなく世界共通のものだったのです。すっきりした理由は、この世界共通の宗教観なのかもしれません。

上記も書きましたが、黒い聖母マリアの像は、オローパだけではありません。オローパの近くのグラツィヤにある幼子イエスを抱く黒い聖母マリア「ロレートの聖母」、有名なのはスペインのモンセラット修道院にある黒いマリア像、フランス各地にある黒いマリア像、等等、日本や東南アジアを含めた世界各地にたくさんの黒いマリア像があります。この黒いマリア像に関して、キリスト教では、地域宗教（大地母神信仰）との結びつき、マグダラのマリアであるとの説、キリスト教の異端である等の諸説が飛び交っているようです。但し、現在に至るまで崇拜されているのは事実であり、それを否定することはできません。ですから、キリスト教としてのそのような難しい諸説を考える前に、単純に、キリスト教を離れて、これは全世界に共通した宗教観であると認識して、ごく自然に、聖母マリア信仰のひとつとして受け取れば良いと思います。